

多津美中学校 人権教育講演会 6月4日(土)
『あきらめないこと 夢をつかむこと』

講師：ソプラノ歌手 村上 彩子先生



ソプラノ歌手の村上彩子先生をお招きし、土曜参観日ということもあり、全学年の生徒と保護者・地域の方、約600名が講演会に参加しました。村上先生の壮絶な半生のお話や歌を熱心に聴きました。最後は、村上先生がステージを下り、生徒の列の中まで入り、生歌を披露してくださいました。



感想

◎今日の講演をきいて、自分がどれだけ自由で便利な世界に生きているのかということを知りました。自分が辛いと思っていることも、世界で見れば極小さな悩みだし、そのような悩みがもてることでも私は幸せなのかもしれないと思いました。(生徒)
◎苦しいことがあっても、どん底になっても、支えてくれる人やわかってくれる人がいることを忘れず、全てのことに感謝という気持ちを抱いて、正面から立ち向かっていく強さが必要だとわかりました。(生徒)
◎素敵な歌声を織りませ、子どもたちの側へ降り立ち、本気で子どもたちのこれからに心からエールを贈ってくださっていると感じました。(保護者)
◎うつむいていた子どもが、村上先生が傍に寄るとうれしそうな顔をし、知っている歌の前奏が流れると隣の子とニコッと笑い合う姿を見て、村上先生の思いが少しずつでも子どもに伝わっていったのだと思っています。(保護者)

天城幼稚園 人権教育講演会 6月11日(土)
『運動遊びの重要性』

講師：(公財)倉敷市スポーツ振興事業団 赤木先生 佐藤先生



倉敷市スポーツ振興事業団から2名の先生をお迎えし、親子での運動遊びを実際に行ったり、運動遊びを親子ですることのメリットについての講話を聴いたりする中で、親子で触れ合うことの楽しさや重要性について学びました。

親子ふれあい運動には、約200名の園児と保護者が参加しました。

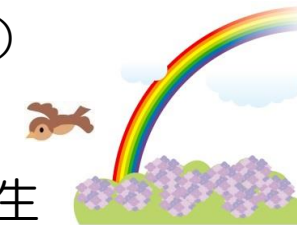
感想

◎幼児期の運動の大切さを知ることができて良かったです。普段、親子で体を動かす機会がほとんどなかったので、室内でも楽しくできる運動遊びを教えてください、今後の参考になりました。講話の中で、「運動神経は、環境づくりで変化できる。」という言葉があり、親としての責任があることに気付かされました。



天城小学校 人権教育講演会 6月25日(土)
『人権トーク&コンサート』

講師：シンガーソングライター 八木 たかし先生



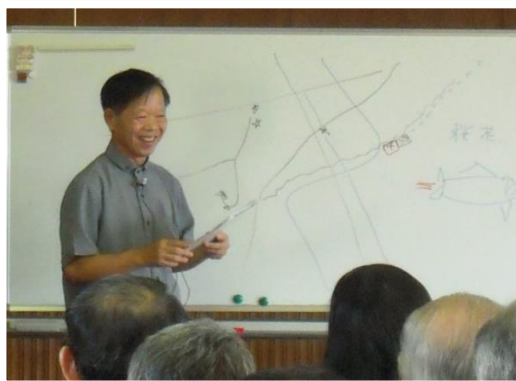
シンガーソングライターの八木たかし先生を人権教育講演会にお迎えしました。当日は、土曜参観日ということもあり、5・6年生の児童と保護者・地域の方、約370名が参加しました。

感想

◎感動しました。生まれてきただけで十分すぎる命ですが、子どもの成長とともにいろいろな欲が出てきて、望むことが多くなっているので、少し考え直してみたいです。
◎みんなで助け合っていくことができる社会を作っていけるよう、私も子どもたちも心がけていくことが大切だと思いました。

多津美公民館 第1回人権教育講演会 8月26日(金)
『特攻隊員の自爆、その背景は』

講師：郷土史家 杉原 尚示先生



郷土史家の杉原尚示先生を講師にお迎えして、本年度第1回人権教育講演会を開催しました。平日にもかかわらず、推進委員や地域の方々、多津美公民館講座生・グループ生等、約80名の方が参加しました。

- 1 墓地の横に飛行機が落ちた!
- 2 元特攻隊教官 神社澄(かんじゃきよし)さんです
- 3 生家の屋根をかすめんばかりに別れの飛行をして
- 4 志願で入隊した神社さん
- 5 戦前の農村のくらしのこと
- 6 軍国主義と徴兵制のこと



神社澄さんが、終戦後、地元亀山で自爆した背景を詳しく丁寧にお話してくださいました。改めて戦争の悲惨さ、そして現在の平和な日本の生活のありがたみについて考えさせられる良い機会となりました。

感想

◎せっかく戦争で生き残って帰ってこられた命を自ら自爆という形をとらざるをえない当時の状況、悲しいことです。
平和を願いながら戦争の準備をしている今の時代、人間の弱さを感じます。1人の命の大切さを子どもたちに伝えていかななくてはいけない大人の役割は大事だと思います。
◎人権…人が人として大切にされるということ。国のために死ぬのではなく、「国のために生きる」そう思える人を育てることが大切なのではないかと感じました。
◎戦後70年余り過ぎ、昔の命の重み、身近にあった戦争の足あと、今の平和な生活の大切さを感じた。



スクープ

推進委員の岡藤副会長が神社澄さんの写真を持って来られていました。岡藤さんのお母様が神社さんの本家筋にあられるそうです。

